

漢字学習が楽しくなる指導のポイント

漢字の仕組みがわかれば、漢字が好きになる。



筑波大学附属小学校教諭
白石範孝

しらいし のりたか*1955年鹿児島県生まれ。東京都の小学校教諭を経て、現職。國學院大學栃木短期大学講師、使える授業ベシク研究会会長、全国国語授業研究会理事、国語ICT研究会会長。著書には、「白石範孝の国語授業のつくり方」(東洋館出版社)ほか多数。

単調な書き取り練習は、子どもを漢字嫌いにしてしまいます。漢字学習が楽しくなる指導法を、白石範孝先生に伺いました。

漢字って
おもしろい!?

国語が嫌いな子どもにもその理由を聞くと「漢字が嫌い」と答える子どもが多いのです。さらに、その理由を聞くと、「漢字はたくさんあって、覚えなければならぬ」とも多量から」という答えが返ってきます。

ひとつの漢字を理解し習得するためには、その漢字にまつわる情報が大変多いことに驚きます。「意味」「音読み・訓読み」「書き順」「画数」「部首」「送りがな」と覚えなければならぬこともいっぱいあります。これらをすべて覚えなければと考えると、漢字が嫌いになってしまうのもうなずけます。

じつは、漢字に対する多くの情報には、いろいろな仕組みやきまりがあるのです。

漢字にはどんな
きまりがある!?

あるのです。そして、その仕組みやきまりに当てはめて、それぞれを考えていけば、漢字を覚えることがとても楽しくなり、漢字がもつ魅力的な世界が広がってくるのです。

要するに、「漢字一つひとつの「意味」「音読み・訓読み」「書き順」「画数」「部首」「送りがな」を機械的に覚えていくのではなく、それぞれにあるきまりを見つけ、その仕組みやきまりを当てはめていけばいいのです。」

漢字の一つひとつを必死にならなくて覚えようとするから、漢字が嫌いになってしまうのです。ぜひ、漢字の仕組みを知って、その楽しさを味わってほしいものです。

いきなりですが、次の漢字の部首を考えてください。

問・聞・閣

たいていの人はそんな簡単なすべて「もんがまえ」と答えるのではないのでしょうか。

では、「なぜ『もんがまえ』になるの?」と聞くと、その理由を、自信をもって答えられる人は少ないのではないのでしょうか。

どうして、このようなことになるのでしょうか。それはたいいていのが、部首をイメージと感覚でとらえているからです。

これまでの漢字の学習で「もんがまえ」という部首とその名称は、だれもが知っています。その知識で見ると、「門」の部分がそれぞれの漢字に入っているのでも「もんがまえ」と答えを出してしまっただけです。

このような覚え方では、別の漢字の部首には使えない知識でしかありません。大切なことは、どの漢字の部首にも使えるきまり

(原理・原則)をきちんと知識として身につけることなのです。

部首にもきまり(原理・原則)があります。そのきまりを知っていれば論理的に考えて、部首を自分の力で導き出すことができるのです。

まず、漢字の全体像から見てもみましょう。漢字は、象形文字と指事文字、そして形声文字と会意文字に大きく分けることができます。

象形文字と指事文字は、1・2年生で学習する漢字がほとんどです。そして、形声文字と会意文字は、象形文字と指事文字のさまざまな組み合わせによってできています。そして、漢字の多くがこの形声文字と会意文字でできてい

象形文字 物の形をかたどったもの



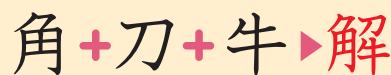
指事文字 意味を図形や記号で表したもの



形声文字 意味を表す部分と、音を表す部分を組み合わせたもの ※音読みする部分がある



会意文字 漢字の意味を組み合わせたもの ※音読みする部分がない



この形声文字と会意文字がど
のようなきまり(原理・原則)で
できているのかを知ることが、漢
字を論理的に理解する手がかり
になります。

1 漢字を見たら音読みすることです。

2 その漢字の中に音読みした部分があるかを調べます。
●音読みする部分がある漢字は形声文字です。
●音読みする部分がない漢字は会意文字です。

3 音読みする部分がある形声文字の場合

粉の場合、「フン」と音読みできる「分」の部分はこの漢字の音読みを表す部分「音符」といいます。もう一方の「米」の部分はこの漢字の意味を表す部分「意符」といいます。このように形声文字は2つの部分に分けられるのです。さらに、2つに分けた部分の「意符」の部分がある漢字の

部首を表しているのです。部首は「米」となります。
●音読みする部分がない会意文字の場合
「解」の場合、「カ」と「ゲ」と音読みしますが、その部分は、この漢字の中にはありません。このような会意文字は、意味の組み合わせによってできています。
「解」は「角」+「刀」+「牛」。「牛の角を刀で切る」という意味をこの漢字は表しています。部首は「角」となります。

漢字のほとんど(約80%)を占める形声文字は、「音符」と「意符」という2つの部分からできています。そして、この「意符」が部首になる、ということになります。

このようなきまりは、いろいろな漢字に使えるきまりです。そして、漢字のきまりを多く身につけることが、漢字を論理的に考えることのできる力になっていくのです。さて、12ページの問題ですが、このきまりを使って考えてみてください。いかがでしょうか。

←答えは、P15コーナー

漢字練習を楽しくする工夫!!

漢字の嫌いな子どもたちの理由に何度も書かなければならないというものがありません。このことを少しでも解決するために、わたしのクラスの子どもたちは、次のようなルールのもとで、日々の漢字練習をしています。

「こんな漢字練習やってみませんか？」

漢字の学習においては、漢字を読んだり書いたりすること、文章の中で使えるようにすることが大切です。そこで、私のクラスでは、漢字の学習教材『漢字まるノート』と作文ノートを利用した『漢字ノート』の2冊をセットで使っています。

「どうやって練習するの？」

毎回、『漢字まるノート』の何ページから何ページまでという範囲と、提出する期日を言います。

「漢字の練習するの？」

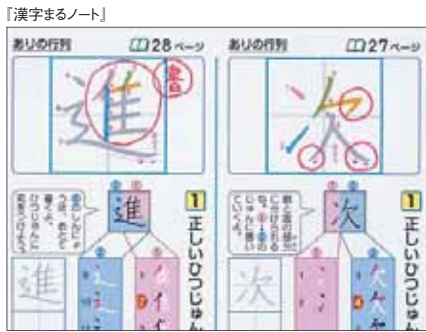
新出漢字の間違えやすいところに印をつけさせます。印のつ

た漢字は、特に気をつけて練習させます。

「印の約束」

●赤の○印は、「とめ」「はね」「はら」「長い・短い」の間違えやすいところです。

●「書」の印は、書き順を間違えやすいところです。書き順は、書き順の3つのきまりをしっかりと確認しながら練習させます。



「漢字まるノート」
漢字に印をつけさせます。これが練習したり、自己採点したりするときの基準になります。

「練習が終わったら？」

練習が終わったら、子どもたちは新出漢字の半分以上を使って、文章を『漢字ノート』に見開きで書きます。

●文章は創作文ですから、自由に書きますが、漢字の意味を考えながら文の中で正しく使えるようにします。

●文章の中で使った新出漢字に

P15 ア 児童のノート参照

は赤の1線をつけて、どの漢字をどのように使ったのかわかるようにします。

「提出するの？」

提出するときは、『漢字まるノート』と『漢字ノート』を2冊セットで出します。そして、提出されたものにわたしがコメントを入れて返します。コメントは次のようになります。

- すばらしい ▼ 注意されたところが、すべて正確に練習してある。
- よくできました ▼ 正確に書け、間違いが少ない。
- さまざまなおコメント ▼ 正確さ・丁寧さに欠ける。

●間違った漢字には、わたしが「？」をつけます。そして、子どもたちにご自分が違うのか、どこが変なのかを考えさせます。

「大切なことは？」

●提出期日を守ること。
●間違った漢字については、練習して正しく覚えるようにすること。

漢字の練習は単純でつまらないと感じている子どもが多いのですが、漢字もきまりを知って練習すれば、その仕組みがわかり楽しくなるものです。このきま

りを知っていると子ども自身が根拠をもって漢字を書くことができるようになります。

書き順のきまりとして、次のことをおさえておきます。

- 上と下
 - 左と右
- ※「上の部分から下の部分」「左の部分から右の部分」へと書く

「漢字は2つの部分に分けられる」ということは、これから先、部首の学習に大きく役立つようになっていくなか、漢字がどのようにできているのかを知るにつな갑니다。

漢字をこのように見ていくと漢字の面白さを味わうことへとつながります。

漢字の練習はつまらないものはありません。不思議がいっぱいで楽しいものであることを子どもたちに伝えていきたいものです。とりあえず書き順の3つのきまりを示しましたが、これに当てはまらない漢字(例えば「ま」や「又」

つく漢字)も出てきます。これらは別なきまりになることもその都度おさえていきます。

漢字の書き順を子ども自身が考えながら、根拠をもって練習することができるようになりたいものです。

「漢字を使って、こんなことやってみませんか？」

漢字学習にアやイのようなことを取り入れています。

どちらの活動も、学習した漢字の意味を知るとともに、漢字を文章の中で使えるようにするために。

いくつかの新出漢字を見て、さまざまなことを想像し、それを文章化していくことは容易なことではありませんが、子どもたちはいとも簡単に創りあげてきます。見事な漢字の使い手となっている様子が見えます。



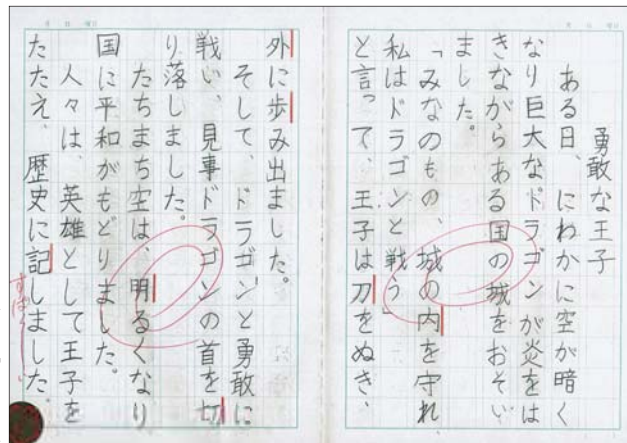
「漢字まるノート」
3~6年 上下刊 光
白石範孝企画監修
(文芸堂)400円
漢字の原理・原則が身につく筆順新方式

「ア 新出漢字を使った創作文作り」

新出漢字を練習した後で、出てきた漢字を使って、文章を創作します。主に3・4年生の活動です。

「新出漢字」

内・刀・外・歩・切・明・記



(児童の漢字ノート)

見事に漢字の意味を知り、文章中で使いこなしていることがわかります。

「イ 短歌・俳句のリズムでの文作り」

新出漢字を練習した後で、出

「12ページの問題、部首を論理的に導き出すことができましたか？」

「まず音読みをチェック！」

音 音 音
訓 訓 訓
部首 部首

問 問 問
訓 訓 訓
部首 部首

「まず音読みをチェック！」

音 音 音
訓 訓 訓
部首 部首

聞 聞 聞
訓 訓 訓
部首 部首

「まず音読みをチェック！」

音 音 音
訓 訓 訓
部首 部首

問 問 問
訓 訓 訓
部首 部首

- 目覚めたら 覚えていない けさの夢
- 米づくり 豊かな水に守られて 豊作の秋 金色の波
- 教師から 恩師にかわる 卒業式
- 発芽した 春の予感が 新芽かな

ムを楽しむことを目的としていますので、これでもよしとしなければなりません。あくまでも、漢字を楽しんで学ぶということが目的ですから……。